

GHGT-13 参加(速報)



■ 開催結果

- ・ 期間:2016年11月15日(火)～18日(金) (11/14(月)Welcome Reception at Olympic Museum)
- ・ 場所:スイステックコンベンションセンター (スイス連邦工科大学ローザンヌ校に隣接)
- ・ 参加国/参加人数:約39カ国前後/約1000人 (速報)
- ・ ORAL SESSION:約350件/ POSTER SESSION:約450件
- ・ 出展数15:JCCS/IEAGHG/KEPCO/日立化成(株)/FLUOR/Wiley/US DOE/CO2 Capture Project 他

■ 発表

11月15日(火) Technical Session2: JCCS 技術企画部長

「Tomakomai CCS Demonstration Project of Japan, CO2 Injection in Process」

11月17日(木) Technical Plenary: 経済産業省

「Present Status and Future Challenges of CCS in Japan」

■ ブース出展

- ・ 来客数:約435名 (11/15_185名、11/16_170名、11/17_50名、11/18_30名)
- ・ パンフレット配布数(4日間合計)
実証試験パンフレット313部、会社案内59部、マンガ300部、続編マンガ403部、下敷き50部
- ・ 壁面全体展示:実施体制、スケジュール、技術・設備の紹介、モニタリングの概要、PA活動の紹介等

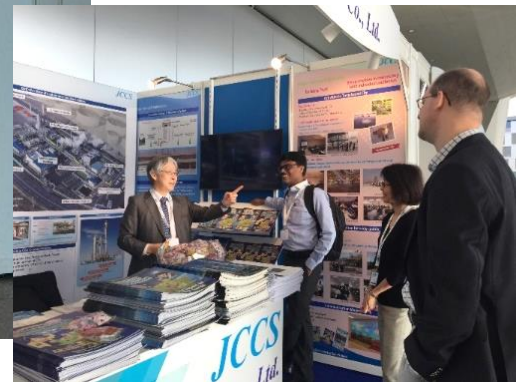
■ 説明内容(国際部/広報渉外部対応部分)

日本政府の委託事業。分離・回収はアミンの2段吸収法。貯留層は2か所、2016年4月から圧入が開始され約7000トン圧入済。年間予定は約10万トン。国は2020年以降に技術の実用化を目指している等

■ 主な質問及びコメント(国際部/広報渉外部対応部分)

- ・ 分離回収法等の技術的な内容や全体概要について。
- ・ 地震への影響について。
- ・ マンガはどのような場面で使用しているのか。実施地でのPAはどのようにしているのか。地元の方の反応は。
- ・ (経産省、JCCS 共に) 講演が大変印象的であった。(質問やコメントのためブースへの来訪多数)
- ・ CCS が日本でこれほど精力的に行われ、また進んでいるとは知らなかった。大変素晴らしい事業だと感じた。
- ・ 情報発信の仕方が素晴らしい。一見難しい技術を工夫して分かりやすく情報発信している点等参考にしたい。ブースのデザインがとても日本的で美しい。順に読んでいけば全体を理解できるように工夫されている。

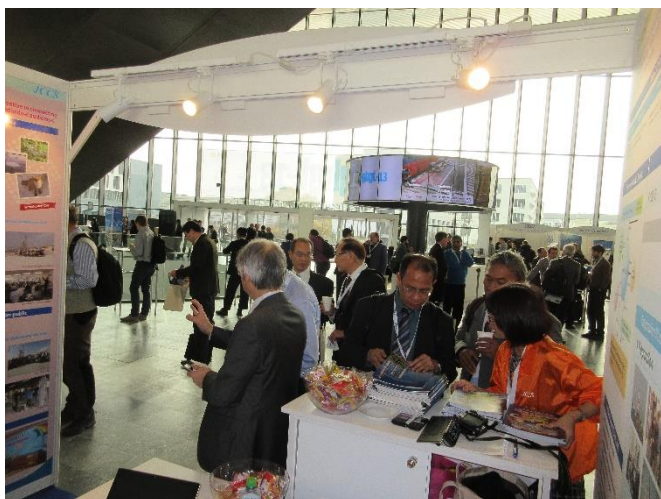
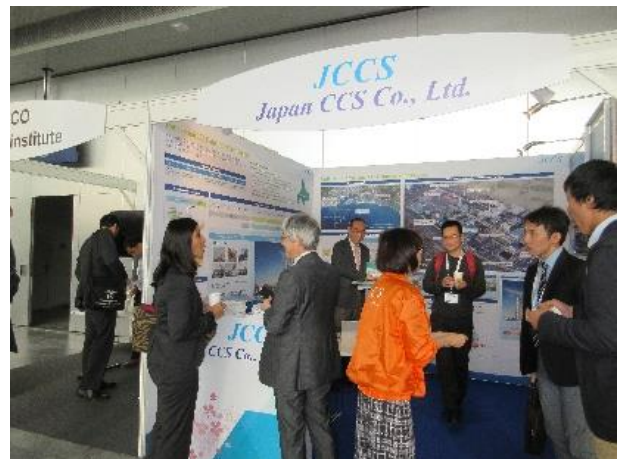
■ JCCS ブースおよび会場風景



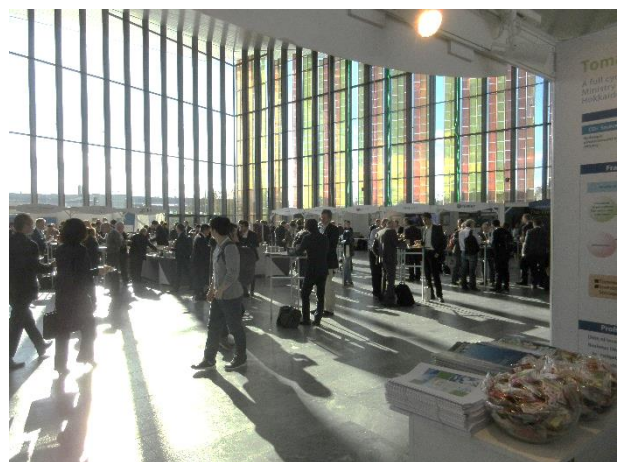
(ブース内:9㎡)



(JCCS 講演後の質問者への対応)



(PA 活動の説明)



(会場風景) (英語版マンガ)

(パネルディスカッション)

